



たんとう 繁盛

記者会見資料

平成30年12月20日

大阪経済記者クラブ会員各位

「大阪活カグランプリ2018」グランプリの発表について

【お問合せ先】

大阪商工会議所 広報企画担当（中村、富永）

TEL 06-6944-6324

1 本年度の被表彰者

○グランプリ：「2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致活動」

130万人に及ぶ市民や団体 代表

WAKAZO 執行代表 塩田 悠人 氏

【理由】広範な市民レベルの活動が万博誘致に貢献した。なかでも「WAKAZO」は若い世代の代表として万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」について考え、世界規模の課題解決をめざすなど、未来志向で誘致機運を盛り上げた点が評価された。

○特別賞：「株式会社木幡計器製作所」

株式会社木幡計器製作所 代表取締役 木幡 巖 氏

【理由】1909年創業の老舗企業が事業承継を機に新分野に進出し、様々な試行錯誤を経て、呼吸筋力を測定する医療機器を上市。中小企業の新分野進出のロールモデルと目されるとともに、ベンチャーのものづくりをサポートするイノベーション創出拠点も開設、新たな共創型のものづくりエコシステムとして期待できる。

2 選考経過

- 10月29日、第1回選考委員会において、ノミネートされた34候補から14候補を選出。
- 12月3日、第2回選考委員会において、委員による投票を実施し、最高得票を獲得した「2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致活動」がグランプリ候補に決定した。また、「株式会社木幡計器製作所」を特別賞候補とすることとなった。
- 12月14日、正副会頭会議において被表彰者を決定した。

3 表彰式

【日時】12月20日（木）14:50～15:10

【出席者】WAKAZO 執行代表 塩田 悠人 氏

株式会社木幡計器製作所 代表取締役 木幡 巖 氏

【場所】大阪商工会議所 7階 国際会議ホール

【内容】表彰状、トロフィーの贈呈／今宮戎神社より記念品を贈呈
記念撮影／受賞者による挨拶

以上

参 考

【大阪活力グランプリ2018実施概要】

1. 趣 旨

大阪の地域経済・産業発展に多大の貢献を果たした個人、法人・団体・施設等を表彰し、その貢献をたたえるとともに、大阪のチャレンジ精神・パイオニア精神の発信・高揚を図る。

2. 主 催

大阪商工会議所

3. 協 力

選考委員としてご協力いただけるマスコミ各社

4. 表彰対象

- ①対象者 : 個人、または法人・団体・施設等
- ②対象地域 : 大阪府内
- ③対象期間 : 平成29年12月～平成30年11月

5. 表彰要件

- ①大阪地域の経済振興・産業発展・イメージアップ等に貢献した個人、法人・団体・施設等。
- ②新機軸の製商品・サービスを開発、企業経営や事業推進等で革新的なビジネスモデルを導入、もしくは集客に多大の成功を収めた個人、法人・団体・施設等。

6. 審査手続き

- ①大阪商工会議所内に選考委員会を設置（9月21日）。
- ②選考委員に被表彰候補案件の推薦を依頼するとともに、大阪商工会議所議員・部会長・委員長・支部長各位に候補案件推薦を依頼（9月28日）。
- ③第1回選考委員会で被表彰候補案件を絞り込み（10月29日）。
- ④第2回選考委員会で選考委員による投票を行い（12月3日）、正副会頭会議に候補案件を推薦。
- ⑤正副会頭会議において被表彰者を決定（12月14日）。

【大阪活カグランプリ2018選考委員会委員】

委員長	大阪商工会議所	専務理事	宮城 勉
委員	朝日新聞大阪本社	経済部長	寺光 太郎
	朝日放送テレビ	報道企画部長	藤田 貴久
	NHK大阪放送局	広報部長	下薮 和久
	大阪日日新聞	編集委員	木下 功
	関西テレビ放送	報道部長	川端 充
	共同通信社大阪支社	経済部長	増田 和則
	産経新聞大阪本社	経済部長	内田 博文
	時事通信社大阪支社	編集部長	藤田 敏伸
	テレビ大阪	報道スポーツ局長	山形 真一郎
	日刊工業新聞大阪支社	経済部長	今西 丈典
	日本経済新聞社大阪本社	経済部長	宮澤 徹
	毎日新聞社大阪本社	経済部長	田畑 悦郎
	毎日放送	報道局長兼ドキュメンタリー報道部長	奥田 雅治
	読売新聞大阪本社	経済部長	橋本 佳与
	讀賣テレビ放送	報道局長代理	池田 建次郎
	大阪商工会議所	常務理事・事務局長	児玉 達樹
	大阪商工会議所	理事・総務広報部長	吉田 豊

(以上18名)

【参考】「大阪活カグランプリ」歴代被表彰者一覧

○第1回グランプリ（平成14年12月）

＜グランプリ＞東大阪人工衛星プロジェクト

（理由：東大阪市の青木豊彦・アオキ社長を中心に取り組んでいるなにわの人工衛星づくりは、まだ現実にはなっていないが、中小企業の技術力の高さを示し、夢を与えた）

＜特別賞＞アンジェスMG

（理由：大阪大学の森下竜一助教授が創業し、9月25日に東証マザーズに上場。ゲノム創薬分野としても、大学発ベンチャーとしても初の上場を果たし、バイオベンチャーへの関心を集めた）

南堀江界限

（理由：かつて家具の街として栄えながら、取り残されていた「南堀江」を意欲とアイデアで、若者の街として再生。今や大阪になくってはならない街になっている）

○第2回グランプリ（平成15年12月）

＜グランプリ＞なんばパークス

（理由：大阪ミナミの拠点として当地のイメージの高揚に貢献するとともに、開業6日間で来場者数が100万人を突破するなど今後も継続的な経済効果が期待できる）

＜特別賞＞阪神タイガース

（理由：18年ぶりのリーグ優勝は沈みがちな関西人や関西経済を元気づけた。経済効果以上の活気を大阪の街に戻した貢献度は大きい）

○第3回グランプリ（平成16年12月）

＜グランプリ＞Team OSAKA

（理由：産学連携によるサッカーロボ「ヴィジオン」を開発。「ロボカップ」国内大会（5月・大阪）、国際大会（7月・ポルトガルリスボン）でともに優勝。また、吉本興業、ダイヘンなども加わり40社で6月に新組織「Roobo」を設立、ロボット普及に尽力している）

○第4回グランプリ（平成17年12月）

＜グランプリ＞新生・そごうと“心ぶら”の復活

（理由：そごう心斎橋本店が9月7日に5年ぶりに再オープンし、大阪ミナミに新たな賑わいの拠点が誕生。心斎橋筋商店街は、そごう開店を機に大人の街の復活に向け共同で取り組み。“心ぶら”という言葉も復活した感がある）

＜特別賞＞ガンバ大阪

（理由：Jリーグ発足後、関西勢として初のリーグ優勝を果たした）

○第5回グランプリ（平成18年12月）

＜グランプリ＞天満天神繁昌亭

（理由：官に頼らず市民の寄付により、大阪に60年ぶりとなる落語専門の定席を復活させた。伝統芸能という文化発信基地の常設で大阪のイメージアップに大きく貢献。さらに地元商店街の活性化も期待できる）

＜特別賞＞株式会社グローバルウイングス

（理由：ビジネスジェットサービス専門の航空ベンチャー。大企業をバックとしない独立ベンチャーで、関西国際空港を基地として利用するなど、大阪経済への貢献が期待できる）

○第6回グランプリ（平成19年12月）

＜グランプリ＞シャープ株式会社

（理由：堺市に建設される液晶パネル工場・薄膜太陽電池工場は、雇用の拡大や関連企業の進出など、地域に大きな経済波及効果を与えることが期待される）

＜特別賞＞大阪フィルハーモニー交響楽団 音楽監督 大植 英次 氏

（理由：指揮者として国際的に活躍する一方、創立60周年を迎えた大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として、「星空コンサート」や「大阪クラシック」など、大阪で気軽にクラシック音楽を楽しめる機会を創出している）

○第7回グランプリ（平成20年12月）

＜グランプリ＞京阪電気鉄道株式会社

（理由：京阪中之島線の開業により、ビジネス街・中之島へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、街の姿を大きく変える起爆剤としての役割が期待できる）

＜特別賞＞山本化学工業株式会社

（理由：英スピード社の水着「レーザー・レーザー」が席卷した北京五輪の競泳種目で、独自開発した「バイオラバースイム」の技術力が注目を集め、大阪の中小企業の実力を世界にアピールした）

○第8回グランプリ（平成21年12月）

＜グランプリ＞阪神電気鉄道株式会社

（理由：大阪・難波を経由して神戸と奈良を結ぶ新たな広域ネットワークを形成し、関西圏の活性化や利用者利便の向上に大きく寄与した）

＜特別賞＞水都大阪2009と水辺の活性化事業

（理由：水の都の素晴らしさを再認識させるとともに、人々と水とのふれあいを促進させ、大阪の魅力向上に大きく寄与した）

井山裕太名人

（理由：史上最年少かつ大阪出身者として初めて囲碁の「名人位」を獲得した功績は大きい）

○第9回グランプリ（平成22年12月）

＜グランプリ＞あっぱれEVプロジェクト

（理由：環境性、デザイン性に優れた三輪の電気自動車（EV）「Meguru」を開発し、関西の中小企業の技術力をアピールした）

＜特別賞＞上本町YUFURA

（理由：大阪新歌舞伎座を核にした新たな複合施設は、大阪の文化芸術の発信拠点として、活力向上とイメージアップに大きく貢献している）

○第10回グランプリ（平成23年12月）

＜グランプリ＞大阪ステーションシティ

（理由：大阪の玄関口である大阪駅に、新たな人の流れを創出した功績は大きく、関西再生をリードする拠点として期待される）

＜特別賞＞大阪マラソン

（理由：大阪初の市民参加型マラソンとして多くの人を呼び込むとともに、まちの魅力を広く発信した）

○第11回グランプリ（平成24年12月）

＜グランプリ＞新関西国際空港会社の設立とLCCの就航

（理由：関西国際空港と大阪国際空港の一体運営、日本初の本格的LCCの就航により、地域経済の活性化に大きく貢献した）

＜特別賞＞100周年の吉本興業、通天閣・新世界、ひらかたパーク

（理由：創業100周年の節目の年に様々なイベントを実施し、大阪の魅力を広く発信した）

山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞受賞決定

（理由：大阪・関西における製薬・バイオ産業の活性化に大きなインパクトが期待される）

○第12回グランプリ（平成25年12月）

＜グランプリ＞グランフロント大阪

（理由：大阪の新たな玄関口として、商業活性化や交流人口の拡大に大きく貢献するとともに、知的創造拠点「ナレッジキャピタル」における新産業創出も期待される）

○第13回グランプリ（平成26年12月）

＜グランプリ＞ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

（理由：人気映画「ハリー・ポッター」の世界を再現したエリアは、国内外から観光客を呼び込む新たな集客拠点となり、経済活性化に大きく貢献した）

＜特別賞＞あべのハルカス

（理由：日本一の超高層ビルとして新たな集客拠点を形成し、周辺地域の活性化に寄与した功績はグランプリに準ずる）

○第14回グランプリ（平成27年12月）

＜グランプリ＞インバウンド消費を盛り上げたミナミの商店街

（理由：急増する外国人観光客の受け入れ体制を強化することで、「爆買い」による消費拡大に貢献し、大阪経済に活力を与えた）

○第15回グランプリ（平成28年12月）

＜グランプリ＞EXPOCITYと市立吹田サッカースタジアム

（理由：万博記念公園内に隣接してオープンした両施設が相乗効果を発揮し、北大阪に新たな賑わいを創出、大阪の活性化に貢献した。スポーツ施設の新たな公民連携モデルとしても注目される。）

○第16回グランプリ（平成29年12月）

＜グランプリ＞TWILIGHT EXPRESS 瑞風

（理由：大阪から豪華寝台列車による西日本エリアを巡るコースが、旅の起点としての大阪の存在感を高めるとともに、西日本沿線の観光活性化に大きく寄与した。インバウンド効果の拡大も期待できる）

＜特別賞＞近畿大学

（理由：「近大マグロ」をはじめとする研究開発成果や、積極的に産学連携を進める等の実学志向が注目と共感を集め、4年連続で志願者数が日本一になるなど、大阪の大学の力を全国に示すものとして評価された）

以上